

研究・調査報告書

報告書番号	担当
209	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
[Difference in medical history classified by ICD-10 between male and female alcoholics] ICD-10 分類によるアルコール依存症者の身体合併症と性差	
執筆者	
篠田律子, 水上由紀, 中川靖枝, 丸山勝也	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nihon Arukoru Yakubutsu Igakkai Zasshi. 2008 Feb;43(1):25-34.	
キーワード	
アルコール症(疫学,合併症); うつ病(合併症); 外来患者; 消化器疾患(合併症); 食欲障害(合併症); 性因子(疫学); 年齢因子; 年齢分布; ICD 分類	
要 旨	
<p>目的: アルコール依存症患者の飲酒歴及び既往歴に関して受診カルテを用いた調査を行い、大量飲酒者の身体合併症の特徴や、女性患者における特徴などについて検討した。</p> <p>方法: 対象は1987～1993年(I期)及び1998～2003年(II期)にアルコール依存症の治療目的で受診した外来初診患者とした。調査項目は飲酒歴(初飲年齢、習慣飲酒の開始年齢)と既往症に設定し、性・年齢・調査時期(I/II期)別に分けて解析を行った。</p> <p>結果: アルコール依存症患者が習慣飲酒を持続してゆく過程で多種多様の身体合併症を有することが分かった。男性患者では「消化器系の疾患」が主体となり、女性患者では「精神及び行動の障害」が主体となっていた。女性患者では「アルコール依存症」と「鬱病」や「摂食障害」といった精神疾患が併存していた。</p> <p>結論: 本研究結果は、表面化し難い女性の飲酒問題の早期発見・早期介入に貢献する可能性があることが示唆された</p>	